

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693200020		
法人名	医療法人 啓信会		
事業所名	グループホーム リエゾン健康村		
所在地	京都府京田辺市大住大坪55-14		
自己評価作成日	平成25年1月20日	評価結果市町村受理日	平成25年6月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ボランティアとの交流を深め、重度化が進む中、理念のもと 皆さんが笑顔で過ごして頂けるよう支援する。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokkensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&liyosyoCd=2693200020-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域と共にみんなの笑顔を支えますと理念に謳う当該事業所では、運営推進会議に多くの地域役員に出席して貰い地域行事へのお誘いや案内があり、利用者と一緒に夏祭りや清掃活動、餅つき会などに参加をしたり、自治会の文化展に利用者が作ったパッチワークを出展する等地域との交流が深めています。また、事業所の夏祭りでは自治会の役員から子ども会への声掛けをして貰い、多勢の方の参加を得ています。外出時は場所の選考を十分行っただうえで出掛け、利用者の喜びに繋げています。家族との関わりを深めるために、家族会を開催し利用者と一緒に食事をしてもらうなどより深く利用者の日常を知ってもらい、面会の回数が増えたり面会時は食事を介助される等、家族と共に支えあう関係が構築されています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム リエゾン健康村	理念を見える所に掲示し共有している。地域との交流を大切に実践している。職員も地元出身が多く共通の話題も多い為、安心して暮らして頂いている。	地域と共にみんなの笑顔を支えますと理念に謳い、リビングに掲げて誰もが確認出来るようにしています。利用者の今迄通りの暮らしを支援し、閉鎖的にならないようボランティアの受け入れや日々の散歩、職員が地域に出向き交流をするなど理念に沿った支援を心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化展や清掃活動に参加し、事業所の夏まつりにも地域の方々が多く参加して頂けており交流に努めている。	散歩や買い物で出会った人と挨拶を交わし、自治会長から地域行事を聞き、餅つきや夏祭り、地藏盆、文化展では利用者の作品を出展しています。また多くのボランティアの交流があり、大正琴、ハーモニカなど音楽を楽しむ機会も多く、事業所の夏祭りでは自治会の役員から子ども会への声掛けをして貰い、多勢の方の参加を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で情報交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、利用者、家族にも参加して頂き意見交換を行っている。	会議は自治会長や多くの地域役員、市職員や利用者家族などの出席を得て開催し、事業所の状況や事故報告、意見交換をしています。事業所の報告を受けて、地域の高齢化や独居の人が増えている状況や認知症の方の処遇などが話題に上がるなど、地域と一体となった話し合いの場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域合同会議に参加して頂き意見交換を行っている。	市職員の運営推進会議への出席もあり、事業所の状況を知って貰っています。会議の議事録は市に直接持参し、地域密着型事業所連絡会議にも市の担当者が参加されるなど、事業所の理解に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し理解に努めている。出入口の自動扉は、空調管理の為閉めてあるが、希望があれば、開錠している。	身体拘束をしないケアを法人研修で学んだ職員が、他の職員に伝達し理解に繋げています。気になる言動があれば、職員同士で注意を合っています。玄関の施錠はせずに利用者の出掛けたい様子の時は一緒に掛け気分転換を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、各自意識を持ち防止に努めている。		

グループホームリエゾン健康村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見制度を利用されている方はいませんが、以前利用されていた方もおられ、必要に応じ対応できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明を行っている。疑問点があれば、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時、サービス担当者会議等で、意見要望を聞き運営に反映させるようにしている。	面会やサービス担当者会議、家族会など意見を聞く機会を持っています。家族から出された意見から、利用者にとって良いのかを職員間で話し合い介護計画に繋げ、サービスに反映しています。また、家族には改善点を報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月のカンファレンスや朝夕の申し送り時、個別面談で意見を聞いています。利用者の介護計画に添った意見等も多く、不眠の改善に取り組んだり、席の配置についての意見など出された意見は職員間で話し合いサービスに活かされるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の意見を聞き職員が働きやすいように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験に応じて研修に出来るだけ参加できるよう配慮している。日々の業務中でも質問等があれば、その都度対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着会議に参加し情報交換している。他施設の行事にも参加させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、アセスメント、フェイスシートを作成し情報を共有することができている。職員が把握し、日々のコミュニケーションに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議に職員も参加することで御家族の意見や要望を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人の意向、希望を話し合い、必要とされるサービスを含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、趣味等を一緒に楽しみ生活するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を取り、家族希望による外泊、外出の支援も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会や外出を自由に行っている。	友人や知人が来られた時はお茶を出してゆっくりと過ごして貰い、本人の様子を伝えたり会話が楽しめるように支援しています。利用者の思いを家族に伝え、正月や親戚の人が来られた時は家に帰り一緒に食事をする等、家族との絆が途切れない様に支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の位置等利用者同士の関係に配慮し、定期的に見直しコミュニケーションがスムーズに行えるよう努めている。		

グループホームリエゾン健康村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば支援していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の意向を伺い、聞き取りが困難な場合、日々のコミュニケーションや観察している様子から情報を得て検討している。	入居時に利用者・家族の意向や暮らし方の希望を聞き記録して職員間で共有しています。日々の利用者との会話の中でも意向を引き出し、把握の困難な方は表情や様子を観察したり、家族に聴きカンファレンス等で本人本位に検討し、思いを把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族に聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を個人記録に記入し、特記事項などは申し送り版を利用し職員が情報の共有が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向に沿うように定期的にカンファレンスを行っている。モニタリングに関しては、全職員が全利用者のモニタリングをする事でプラン内容を検討している。	本人や家族から聞き取った情報や医療情報等を収集し、アセスメントを行い介護計画を作成しています。毎月全職員が介護計画の評価と修正を行い、ケアマネジャーがまとめて記入しています。介護計画は3ヶ月毎に見直し、見直しにあたっては再アセスメントを行い、家族も参加するサービス担当者会議を開催しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン内容に沿った記録を残し情報の共有をしている。ケアプラン内容を検討する際やカンファレンス時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の対応に協力が困難な家族も多く、往診の導入を行い、定期的に診察が受けられる環境を作り、家族の不安や負担を軽減できるように努めている。		

グループホームリエゾン健康村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し、ボランティアの方々に来ていただき歌や踊りを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期受診を家族に行ってもらっている。必要に応じ手紙で情報を伝えたり、職員が同行している。家族の受診の負担が大きくなられた方は、往診を取り入れて負担軽減を考慮している。	契約時、かかりつけ医の継続受診が出来る事を利用者・家族に説明し、協力医による往診制度がある旨の説明をしています。家族の状況によってはかかりつけ医への受診に職員も同行をし、情報を確認しています。看護師による薬の管理や健康管理が行われ、協力医の月1回の往診と24時間連絡可能な医療体制となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の来所時に状況報告し、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時医療機関との情報交換を行い入院中も様子を見に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の傾向が強くなり、ターミナルについて必要に応じ家族との話し合いが必要になってきている。往診については、入所時に説明をしている。	入居時には家族に看取りの指針に添って説明をし、状況が変化した時などには家族と看護師、医師も交え話し合っています。昨年看取りの支援を往診医の点滴や家族に出来る限りの応援の中で経験をし、職員は看護師から看取り研修を受け、日々の記録を詳細にするなどアドバイスを貰い支援に結び付けられました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。災害時は近隣の協力もお願いしている。	訓練は消防署立会いのもとに年2回昼夜想定で行い、消防署とは利用者の重度化による避難の仕方について話し合っています。運営推進会議の委員や近隣の家に協力を依頼し、参加を得ています。夜間の事業所の体制を話す中で向かいの家から庭を避難場所として提供して貰う等、地域の協力も得られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちを持ちながら一人一人に対し、声掛けの工夫をし、誇りやプライバシーを大切に対応している。	法人の接遇研修を受けた職員は報告書を作成し、資料を回覧して全職員に周知しています。毎日一緒に生活して親しくなる利用者との関係が、親しい中でも節度を持って対応するように注意しています。管理者が職員の言動で気になった時は、その都度気付きを促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に耳を傾け、自ら決定出来るよう声を掛けるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを優先に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪の声掛けを行い、衣類も本人と一緒に選ぶなど支援している。足りないものは家人に依頼し購入依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる献立を考えている。おしぼりを準備したり、盛り付け、片付け等を職員と一緒にやっている。	昼食は主に配食サービスを利用し、週2回昼食レクリエーションの日を作り利用者と一緒に献立を立て、利用者の力を活かしながら準備や片づけをしています。頂き物の野菜や畑で採れた旬の食材を使う事もあります。誕生会にケーキを焼いたり、おはぎを作るなど、利用者と職員は共に楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が定期的チェックし、アドバイスをもらっている。食事量、水分量を記入し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けを行い、口腔ケアを行っており必要な方は仕上げ磨きを行っている。希望のある方は、歯科往診にて定期健診をしている。		

グループホームリエゾン健康村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の様子、行動を把握し声掛け誘導している。	職員は利用者の排泄チェック表を見たり申し送りで情報を共有して、利用者に合わせた誘導を行いトイレでの排泄を支援しています。夜間はポータブルトイレを利用することで失敗を減らして気持ち良く暮らせるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気を配り献立にも工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、曜日は決まっているが本人の体調希望を優先し気持ち良く入って頂くよう支援している。	風呂は毎日準備をし、概ね一日おきに入浴できるよう支援しています。希望に沿った支援になるよう心がけ、毎日入っている利用者もいます。車椅子の方は二人介助で安全に入ってもらい、拒否される方は声のかけ方を工夫したり、時間をや人を変えて誘導し入浴に繋げています。季節の柚子風呂では香りを楽しみ喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理を行い、本人希望で電気などを使用されている。日中、散歩やレクリエーションに参加してもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに服薬内容を閉じ、変更があった時は申し送りで職員が把握し、症状など変化がある時は、看護師、家族に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品作りや外出を行うなど、本人の希望に添うよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族参加の遠足に行ったり職員と買い物や散歩に出掛けている。ドライブに出掛け外で外食することもある。	車椅子の方も近隣の散歩に行ったり、数人で畑や公園、堤防に出掛けています。ドライブ行き季節の移り変わりを楽しんでいます。春の遠足は家族にも案内を出し一緒に行くこともあります。ホテルの食事ではとろみ食や刻み食を持って出かけるなど、場所を検討しながら支援しています。	

グループホームリエゾン健康村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的に事務所金庫で管理し、本人と買い物や外出に出かけた時に使用している。又自己管理にて現金を持たれている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時電話、手紙でのやり取りをその都度、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、季節に合わせた飾りつけを行い、季節を感じて頂くようにしている。皆さんが、テレビを見て過ごしやすいようにソファの位置を変え過ぎて頂いている。	リビングは明るく広い空間で少人数で過ごしたり、テレビを好きな時にみられる等、ゆっくりと寛げる場所になっています。古風な筆筒や額に入った絵や写真、利用者手づくりのちぎり絵が季節に合わせて飾られています。換気に気をつけ、温湿度の管理を心がけ、車椅子でも動き易い様にし、皆の顔がみられる様に、利用者の意見を聞きながら設えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を定期的に見直し、ソファーや畳の部屋で過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂き安心して過ごして頂けるようにしている。	居室は利用者の使い慣れた物が持ち込まれ、家族の写真や大切な仏壇、位牌にはお茶や水を供えベッドや衣装ケースや筆筒などの家具が家族と共に設えています。畳部屋もあり、ベッドや布団を敷いたり自宅と同じ設えにして居心地良く過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり設置を行い、入居者のADLを把握し自立した生活が出来るよう支援している。		